

(5) スターチス
ア 殺菌剤, イ 殺虫剤, ウ 土壌消毒剤

農薬名	成分名	系統名	RAC コード I:殺虫 F:殺菌	適用病害虫名													注意事項
				灰色かび病	炭疽病	褐斑病	菌核病	うどんこ病	萎凋細菌病	株腐病	苗木立枯病	ヨトウムシ	シロイチモジ	ハスモンヨトウ	コガネムシ類	アブラムシ類	
< 殺菌剤 >																	
アフエットフロアブル	ベンチカルブ [®]	アミド [®]	F:7					花								花:【花き類・観葉植物登録】	
ゲッター水和剤	シエトフェンカルブ [®] ・チオファネートメチル	混合剤	F:10・1	花												花:【花き類・観葉植物登録】	
サンヨール	DBEDC	有機銅	F:M01	◎				◎						◎	◎		
フルピカフロアブル	パニピリム	アニリピリミジン	F:9	◎				◎									
ポリオキシシンAL水溶剤	ポリオキシシン複合体	抗生物質	F:19	花				花							花	花:【花き類・観葉植物登録】	
ポリベリン水和剤	イミノクサジン酢酸塩・ポリオキシシン	混合剤	F:M07・19	◎				◎									
ロブラール水和剤	イロシリン	ジカルボキシイミド [®]	F:2	◎													
< 殺虫剤 >																	
アディオフロアブル	ヘルメリン	ヒレスロイド [®]	I:3A									◎					
カスケード乳剤	フルフェノクスロン	IGR	I:15									◎	◎				
スミチオン乳剤	MEP	有機リン	I:1B											◎			
ヨールフロアブル	テラニプロール	ジアミド [®]	I:28										花			花:【花き類・観葉植物登録】	
< 土壌消毒剤 >																	
ガスタード微粒剤	ダゾメット		I:8F						◎	花	花					花:【花き類・観葉植物登録】	
バスタード微粒剤									◎								
クロピク80									◎								
ドジョウピクリン	カルビクリン		I:8B						◎								
ドロクロー																	

注) 苗木立枯病の対象病原菌の表記 R:Rhizoctonia

エ 病虫害防除法（スターチス）

（ア）褐斑病 *Cercospora insulana*

（防除のねらい）

病斑上に生じた分生子が飛散しまん延するので、初発からの防除を徹底する。また、活着不良や肥料切れを起こすと発病を助長する。

（耕種的防除法）

- （１）十分活着させる。
- （２）肥料切れを起こさないようにする。
- （３）被害葉を除去する。

（イ）菌核病 *Sclerotinia* sp.

（防除のねらい）

被害株は菌核を落とさないように持ち出し処分する。陽熱消毒の効果は高い。

（耕種的防除法）

キクの項参照。

（ウ）白絹病 *Sclerotium rolfsii*

（防除のねらい）

発生してからは防除が困難である。

（耕種的防除法）

キクの項参照。

（エ）炭疽病 *Colletotrichum capsici, Glomerella cingulata*

（防除のねらい）

育苗期に立枯れを生ずる。葉、茎、花に発生する。

（耕種的防除法）

- （１）さし芽に用いる親株は健全なものを選ぶ。
- （２）さし穂は流水できれいに洗い流す。

（化学的防除法の注意事項）

栄養繁殖の品種では、さし芽時から散布する。

（オ）灰色かび病 *Botrytis cinerea*

（防除のねらい）

花茎の伸びるところから発生が多くなる。過湿で風通しが悪いと発生しやすいので、換気を行ったり、過繁茂を避けるなどの注意が必要である。また、枯死した下葉にも多発し伝染源となるので、薬剤散布は下葉にも十分かかるように行う。

（耕種的防除法）

- （１）被害葉・花茎は除去する。
- （２）施設内の換気を十分図る。

（カ）株腐病 *Rhizoctonia solani*

（防除のねらい）

生育中・後期に株元が腐敗し立ち枯れる。活着不良や有機物の多施用は発病を助長する。

（耕種的防除法）

- （１）健全土壌に植え付ける。
- （２）発病株は除去する。
- （３）十分活着させる。
- （４）未熟な有機物を施用しない。

(キ) ウイルス病 CMV, TuMV

(防除のねらい)

病原ウイルスはキュウリモザイクウイルス (CMV) , カブモザイクウイルス (TuMV) で, アブラムシ類によって媒介される。育苗期から定植初期の感染は被害が大きいため, 初期のアブラムシ防除が重要である。

(耕種的防除法)

- (1) 育苗期には寒冷紗被覆する。
- (2) 発病株は直ちに除去する。
- (3) シルバーマルチ等を使用する。

(ク) アブラムシ類

(防除のねらい)

ウイルスを媒介するとともに, 直接吸汁被害も問題となる。

(耕種的防除法)

白寒冷紗被覆, シルバーマルチの使用。

(ケ) ヨトウムシ類

(防除のねらい)

育苗中の被害は大きいため特に注意する。早期発見に努め, 若齢幼虫期に防除を行う。